



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
平成30年度学校だより
第8号
平成30年10月31日発行



一人一人のよさを大切に

ススキやコスモスを吹く風が少しずつ寒くなってきて、イチョウの葉が徐々に黄色く色づき始めてきました。その風景に秋の深まりを感じています。

10月は、運動会、持久走大会と、それぞれの力を伸ばしたり、仲間と一緒に成し遂げる力を伸ばしたりする取り組みの中で、目当てに向かって友達と一緒に取り組む集団としての団結することの難しさや喜び、自分の力を出し切る達成感を味わったことと思います。そのたびに、保護者様をはじめご家族、地域の皆様には、大きな拍手や声援をおくっていただきました。ありがとうございました。

また、1年生が志楽幼稚園、タンポポハウスの年長児と一緒にいった秋見つけ、2年生のバスや電車乗り継いだ乗り物探検、3年生の漁連や消防署などへの社会見学、6年生の引揚記念館、赤れんが博物館で学ぶふるさと学習など、校外学習も次々にありました。その中で、集団行動を行うときの心構えを再確認するとともに、学校では学ぶことのできない「生」の体験をし、多くのことに気付くことができました。おうちの方には、体調管理や準備など大変お世話になりました。

現在、オープンスクールウィークです。30日の持久走大会には200人近くの皆様にご来校いただき、温かい声援をいただきました。11月2日まで普段の授業風景も見いただければ幸いです。

11月、学校では人権旬間やいじめ対策強化月間の取り組みを行います。新聞などでも「いじめと認知された件数は、全国で41万件」等、報道がなされています。志楽小学校では、常に子どもたちの人間関係に目を向け、気になる状況を見かけたら、すぐに対応するよう心掛けています。しかし、見えないところで困っている子どもたちの声をつかむため、アンケートを行ったり、一人一人と面談を行ったりするなど、さらに一人一人を大切にしながら取り組んでいきます。捉えた事象については、解消に向けて支援や見守りを継続していきます。心の安定と優しさを、ご家庭や地域の皆様と学校でともに協力して育てていきたいと存じます。今後もお気付きの点がありましたら、お伝えいただきますようよろしくお願いいたします。

2学期の折り返し、宝物がいっぱいあった子どもたち一人一人のよさを大切に、各自が居場所を感じ、つながりややりがいを作っていけるよう教育活動を充実させていきたいと考えています。ご支援・ご協力をお願いいたします。

校長 小森昌子
教職員 一同

あいさつ

2学期の子どもたちとの合言葉は、「きょうは、みそあじ」。その中の「あ」は「あいさつをする。」です。

大人は、子どもたちに「あいさつをしましょう」とよく言います。私も「あいさつ」は「あ(会)ったときにいっしゅん(一瞬)でさわやかにつながることのできる魔法の言葉」だから、あいさつをしよう、と子どもたちに話したことがあります。「あいさつ」には、相手を大切にすること「こころ」が含まれていると思います。

最近、児童会本部の6年生が、みんなが誰にでもあいさつができる学校にしたいと、毎朝、児童昇降口で登校してくる仲間にあいさつをしています。大きな、すがすがしい声が響き、あいさつされた子どもたちも少し照れながら「おはよう」と返しています。素敵な光景です。

学校では、コミュニケーション力を付けようと、朝の

会でスピーチをしたり、ペアで話をしたりすることに取り組んでいます。コミュニケーションを取る第一歩は「あいさつ」。児童会の取り組みが全校に広がることを願っています。

さて、朝はなかなか大きな声であいさつができない子どもたちもいますが、下校のときに出会う子どもたちはみな「さようなら」と大きな声で返します。「一日、がんばった。また、明日」という気持ちが含まれているのかもしれない。朝から「今日も一日、がんばろう。」と元気に登校できる子どもたちを育てることができるよう、一人一人に向き合いたいと思います。ご理解・ご支援をお願いします。

